

(様式1-表)

令和8年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書

学校番号	43	豊田市立 平和小 学校	代表	塚本 茂博
------	----	-------------	----	-------

※分野[a: 国際交流・国際理解、b: 地域連携、c: 自然体験、d: 環境教育、e: 学力向上、f: 交流体験、g: 福祉・ボランティア、h: 伝統文化、i: その他()]から選ぶ。

テーマ	「ふるさと大好き！平和小大好き！」	分野	f	交流体験
	サブテーマ ～地域のよさに気づき、豊かな自然環境を大切にする子を育む体験活動や交流学习～	※(その他)は分野を右欄に記入		
学校づくりの視点(ねらい)	- 本校創立以来、学校北側に広がる「平和の森」や近隣の里山において、子どもたちがその豊かな自然に浸り、心に響く体験をもとにした深い学びを展開する。 - 生活科や総合的な学習の時間をはじめとする教科・領域、そして学校行事において身近な自然を継続的に活用することで、子どもたちに学校の里山として愛着をもてるようにする。 - 地域学校共働本部の事業によって、本校学区に潜在する地域の方々の人的な力による支援を学校づくりに活かす。 - 地域に学ぶことや小渡小学校との都市と山間の教育交流等を通して、この地域のよさを知り、将来にわたって地域に関わろうとする意欲を育む。			
活動内容・計画	- 平和の森や地域を生かした各教科・領域での有効的な活用 - 長年にわたって、この地で学習できるようにと多くの樹木を植え、整備してきた平和の森等で、教科の学習での積極的な活用を図る。(年間) - 学年ごとに図画工作科の造形遊びや材料探し、生活科での秋見つけ、国語科の俳句づくりや作文の題材集めなど、自然や季節を感じながら学びを深める活動を取り入れる。(随時) - 学校図書館を学習情報センターとして位置づけ、ふるさとについて積極的に学ぶ子どもたちの知の拠点としての整備、活用を進める。(年間) - 価値ある学校間の交流、人とのつながり・学びのつながり - 小渡小学校との交流を計画する。互いの地域性の相違点の実感、共に学び合うことの楽しさの体感の場とする。 ＜活動＞ 3年…小渡の町探検・お互いの町について発表する(10月) 1年間にわたって縦割り班での各活動(縦割り遊び、学校行事)を進める。(年間) - 地域の素晴らしさを体験できる地域オリエンタリング(5月) - 学区の素晴らしい自然や街並み、環境、地域の人の温かさを実感する活動を展開する。(5月)			
補助員配置	図書館司書 校内整備員			
実績・期待される効果	「平和の森」と「地域を生かした」学習は、身近にあるすぐれた教材を提供する場、子どもたちの心を育む場となっており、自然体験では、興味や関心を高め、新たな発見による学ぶことの楽しさの実感につながっている。 - 小渡小学校との交流によって、進んで人とのかかわりをもたせ、コミュニケーション能力を高める。 - 旭地区の豊かな自然にふれ、平和小ではできない貴重な体験ができる。 - 相互の児童にとって、相手を意識し、わかり易く表現することや共に学ぶことの大切さを実感できる。 - 縦割り活動の年間を通した展開により、学年を越えて活動する楽しさを実感できるようにする。 - 自分の住む地域の良さを知り、地域住民としての自覚を高めることができる。 - 図書館の機能を充実することにより、さらなる図書館利用が見込まれる。これまで以上に、情報収集、情報活用が図られ、ふるさとや他地域の自然や文化に関する学習が深まる。 - 草刈や樹木の剪定など、校内の整備を進めることで、敷地内が安全になり、児童が安心して生活することができる。			
検証方法	- 各活動のねらいを明確にして実践を進め、子どもの学びの変容を児童の作文や手紙、ワークシート・質問紙の内容等から、本事業の各活動におけるねらいの達成度を分析し、検証する。 - 学校HP・学校だより・学年通信等で、本事業の活動を掲載していくことで、保護者の本事業への関心と理解を高め、保護者アンケート回答の数値や自由記述から、保護者と地域の関心・期待度を分析し、検証に役立てる。			